

第11節

एतावानेव यजतामिह निःश्रेयसोदयः ।
भगवत्यचलो भावो यद् भागवत्स्रातः ॥ ११ ॥

etāvān eva yajatām
iha niḥśreyasodayaḥ
bhagavaty acalo bhāvo
yad bhāgavata-saṅgataḥ

etāvān—このさまざまな崇拜者たちすべて; *eva*—確かに; *yajatām*—崇拜しているあいだ;
iha—この生涯で; *niḥśreyasa*—最高の恩恵; *udayaḥ*—発達; *bhagavati*—最高人格主神に対する;
acalaḥ—揺るぎない; *bhāvaḥ*—自然な魅力; *yad*—～であるもの; *bhāgavata*—主の純粋な献
愛者; *saṅgataḥ*—交流。

無数の半神を崇める者たちでも、最高人格主神への揺るぎない自然な愛着という無上の恩恵をさずかるが、それは主の純粋な献愛者との交流だけをとおして得られる結果である。

要旨解説

最初に創造された半神・ブラフマーから小さなアリにいたるまで、物質創造界のさまざまな環境に住む全生命体は、物質自然界の法則、すなわち至高主の外的力に条件づけられています。純粋な境地にいる生命体は、「私は主の部分体である」という事実がわかっているのですが、物質エネルギーを支配する望みゆえに物質界に投げこまれると、物質自然界の三様式に条件づけられ、最上の恩恵をもとめて苦闘するようになります。この生存競争は、物質的な楽しみという魔力に駆りたてられて狐火を追いもとめる様子に似ています。

この章で述べられてきたさまざまな半神崇拜、そして神や半神に頼らない科学的知識という近代発展は、どちらも幻です。幸せになろうとしてそのような計画をたてても、物質創造界のなかで縛られた生命体は、誕生・死・老年・病気という生活の問題は決して解決できないからです。宇宙の歴史はそのような計画者の名前で満たされていますが、無数の国王や皇帝が現われては消え、計画作成の歴史にその名前を残してきました。しかし、人生の一番大切な問題は、かれらの努力にかかわらず、未解決のまま残されるのです。

じつは、私たちの生涯は真の問題を解決するためにあります。さまざまな崇拜方法に従って半神を満足させても、あるいは神や半神に頼らないいわゆる科学的知識を高めても、

その問題を解決させることはできません。神や半神にはまったく関心を寄せない愚かな物質主義者はさておき、ヴェーダはさまざまな恩恵が得られる崇拝を勧めているのですから、半神の存在はまやかしでも想像でもありません。私たちが存在するようになれる存在しますが、宇宙を統括するさまざまな分野で主に直接仕えていますから、私たちよりはるかに強い力をそなえています。『バガヴァッド・ギーター』がこのことを確証していますし、最高の半神である主ブラフマーを含むさまざまな半神が住む惑星についても記述されています。愚鈍な物質主義者は、神はおろか半神の存在さえ信じませんし、惑星が半神に支配されていることも信じません。もっとも近いチャンドラローカ、すなわち月に行くために大騒ぎしているのに、機械で調査を尽くしてもこの星のことではほとんど知らず、月の地面を販売するという嘘八百を並べても、横柄で愚かな科学者や物質主義者はそこに住むこともおぼつかないのですから、数えることさえできないほかの惑星など行けるはずがありません。いっぽう、ヴェーダの従者たちは別の方法で知識を得ます。第1編で説明したように、かれらはヴェーダ經典のことばをすべて受けいれますから、神や半神について、物質界を超えた、あるいは物質界のなかにあるかれらの居住惑星について完全で正しい知識を持っています。もっとも信頼できるヴェーダ經典は、インドで最高権威者とされているシャンカラ、ラーマーヌジャ、マドゥヴァ、ヴィシュヌ・スヴァーミー、ニンバルカ、チャイタンニャたちによって受けいられ、さらに世界中の重要な偉人たちがこぞって学んでいるのは『バガヴァッド・ギーター』であり、そのなかで半神とその住居の崇拝について言及されています。『バガヴァッド・ギーター』（第9章・第25節）が確証しています。

yānti deva-vratā devān
pitṛn yānti pitṛ-vratāḥ
bhūtāni yānti bhūtejyā
yānti mad-yājino 'pi mām

「半神を崇拝する者は半神のなかに生まれる。祖先を崇拝する者は祖先のもとへ行く。幽霊や邪鬼を崇拝する者はそのような生物のあいだに生まれる。そしてわたしを崇拝する者は、わたしとともに住む」

『バガヴァッド・ギーター』は、「ブラフマローカを含む物質界の全惑星は一時的に特定の場所にあるだけで、一定期間後に消滅する」と言っています。ですから、半神にしてもかれらの従者にしても、宇宙が破壊されれば消えていくのですが、神の国に入った人々は永遠の生活を永遠につづけます。それがヴェーダ經典の見解です。半神を崇拝する人々は、信じない人が得られない1つの恩恵を授かります。それは、ヴェーダの見解を確信し

ているからこそ、主の献愛者との交流をとおして「至高主を崇拜する恩恵」が得られる、ということです。しかし、愚かな物質主義者はヴェーダの教えを知らないため、経験にもとづく不完全な知識、あるいは物質科学にもとづくまちがった確信に動かされ、いつまでも暗闇にとどまります。そのような知識では超越的な科学の領域に到達できないのです。

ですから、愚かな物質主義者やかりそめの半神崇拜者は、主の純粋な献愛者という超越主義者とふれあう機会に恵まれなければ、なにをしても労力の無駄です。主の献愛者という神聖な人物の恩恵だけで、人間生活の最高完成である純粋な献愛奉仕に到達することができます。主の純粋な献愛者だけが、進歩的な生活という正しい道をしめすことができます。それ以外は、神や半神を知らない物中心の生き方も、はかない喜びを求める半神を崇拜する生活も幻想にすぎません。『バガヴァッド・ギーター』はその点も巧みに説明していますが、この書物の教えは純粋な献愛者との交流をとおしてこそはじめて理解できるものであり、政治家や無味乾燥の哲学的推論者からはなにも学べません。